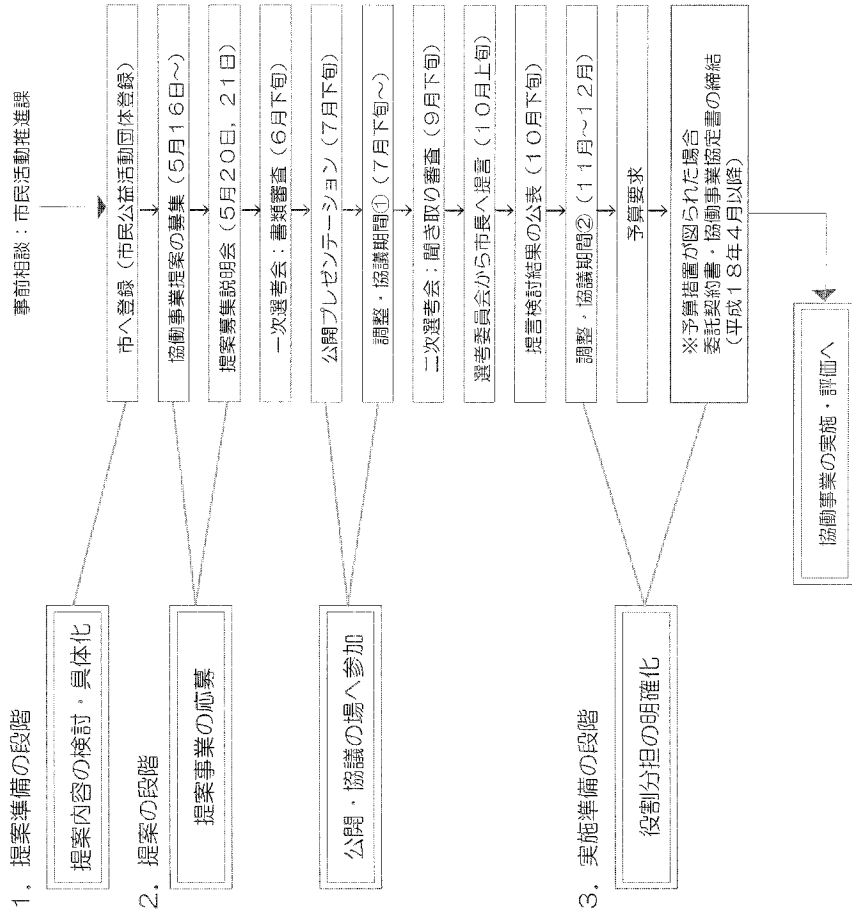


市民が担い手！ 協働事業提案制度がスタートします！

近年の社会状況の変化に伴い、地域における新たな課題が発生している中、その課題解決に向けて、市民の皆さんの中にも「市と協働してこの事業を進めたい」、「すでに実施されている市の事業を私たちがこんな工夫をして実施したい」といった思いが生まれてきていると思います。そこで市では、市民公益活動団体（特定非営利活動法人又は非営利の社会貢献活動を行っている任意団体）からの企画・提案をもとに、ともに提案内容の実現性を高め、事業の実施に向けて力を合わせていく仕組みとして、『協働事業提案制度』を創設することとしました。この制度では、提案された事業内容を一年間かけて成案化に向けて調整し、協働事業（市から提案団体への特許契約…柏市民公益活動促進条例に基づき委託契約）として実現化していくことを目指すもので、公共サービスの質の向上、市民公益活動団体の事業力強化、市議員の協働意識の構築、更に市の既存事業の見直しを目的としています。

*詳細は、5月15日の広報かしわをご覧ください。

■ 事業の流れ ■



市民公益活動支援センターを考える会 ニュースレター Vol.1
発行日：2006年5月9日

■ 発行：柏市 市民生活部市民活動推進課
〒277-8505 千葉県柏市柏5-10-1
TEL: 04-7167-1126 FAX: 04-7167-8103
■ 制作：特定非営利活動法人 NPO 支援センター ちば
〒277-0005 千葉県柏市柏2-5-9 岡田ビル5F
TEL: 04-7168-8600 FAX: 04-7168-8611

市民公益活動支援センターを考える会

市民公益活動支援センターを考える会がスタートしました！

柏市では、平成16年10月に、「市民との協働に関する指針」と「柏市民公益活動促進条例」を施行し、現在市民公益団体への応援体制として、大別して以下3つのことを進めています。

柏市民公益活動促進条例より

- ① 財政支援としての補助金制度の拡充 → 今年度で8年目
- ② 市民公益活動団体の特性を活用した、協働事業提案制度の導入 → 今年度からスタート
- ③ 市民公益活動団体の活動拠点や情報を提供する、(仮) 市民公益活動支援センターの設置 → 平成18年度中オープン予定

今回スタートした「市民公益活動支援センターを考える会」(以後、考える会)は、上記③を平成18年度中にオープンするための検討会として、一般公募の市民15名と市、社会福祉協議会、そして民設のNPO支援センターちばがコーディネーターとして参加する形で設置されたものです。約10回の検討会を経て、今年度の秋ごろ提言書を市長に提出することとしています。

なお、考える会で話し合われた内容は、常に皆さんにお伝えしていくとともに、より多くの市民の方々の声をお聞きするため、3つの形で情報交換ができるようになります。



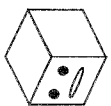
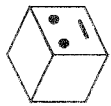
- 皆さんとの意見交換の場づくりをします
- ① ニュースレター
⇒ 数回分まとめて、全部で4回発行していきます。
 - ② アンケート
⇒ いろんな(仮)市民公益活動支援センターがほしいかの要望等をお伺いします。配布中
 - ③ タウンミーティング
⇒ 10月中旬を予定しています。

今後のスケジュール(案)

SC=活動拠点の略

第1回	4月12日	趣旨説明、全国の事例紹介、グループワークで意見交換 アドバイザー：山岸秀雄さん(特活) NPOサポートセンター(理事長)
第2回	4月28日	他地域の支援センターの視察 視察先：北区NPO・ボランティアふらざ / 浦安市市民活動センター
第3回	5月31日	機能を考える①～SCで提供する「ハード事業」、NPOアンケート結果の報告、視察報告
第4回	6月中旬	機能を考える②～SCで提供する「ソフト事業」 既存のサービス(社協・NPO支援センターちば・柏市)との役割分担、中越地震から学ぶ等
第5回	7月上旬	運営方法を考える①～SCの運営方法を検討 官営が民営/運営委員会/委託かについて、指定管理者制度の勉強など
第6回	8月中旬	運営方法を考える②～SCの運営方法を検討
第7回	9月上旬	利用方法を考える～SCの利用方法を検討 開館日・時間、利用料金・時間、利用者の範囲
第8回	9月下旬	提言書の検討① これまでのまとめ作業
第9回	10月中旬	タウンミーティング 検討事項の報告と、意見収集
第10回	10月下旬	提言書の検討② 総まとめ
第11回	11月上旬	提言書の提出・解散式

市民公益活動支援センターを考える会 第一回 会議速報

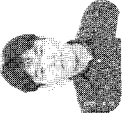


第一回会議が4月12日(火)に柏市役所で開催されました。内容は以下の通りです。
①会の概要説明、②メンバー自己紹介、③全国の支援センターの現状についての勉強会
ゲスト：(特活)NPOサポートセンター理事長・山岸秀雄さん、④グループでの意見交換、⑤今後のスケジュール確認、⑥グループリーダーの選任(保田行宏さんに決まりました)、⑦次回の視察についての事務連絡。

メンバーを 考える



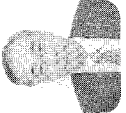
塚越 忠夫



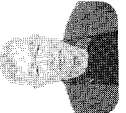
四元 恒慈



古田 孝子



保田 行弘



高田 昭治



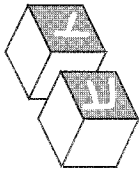
増田 泰子

コーディネーター・相談・ヒト

- コーディネーター
 - ・設立・経営・労務・会計などの相談
 - ・相談を積極的に専門家につなげる人
- コーディネーターは市民と行政が一緒に担う
 - ・相談・事務
 - ・窓口が常に開いていること
 - ・事務局をしてくれる人がほしい
- ヒト
 - ・専門分野を熟知している人
 - ・行政などの所轄窓口をよくわかっている人
 - ・何を相談していいかわからないような相談者へもきちんと対応できること
 - ・フィアールを見せるだけで説明できないのではダメで、団体の説明が出来る人
 - ・窓口で欲しい情報をくれる人・マッチングしてくれる人
 - ・何でもいからもちって行けば交通整理をしてくれる。パイプ役、つなげる役

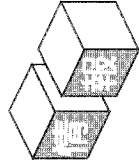
交流・サロン・ネットワーク

- サロン
 - ・気軽にそこに行って、お茶をのみながら、情報を交換できる場所(お茶や食べ物OK)
 - ・いろいろな人と、交流が常時できる
 - ・誰でも色々なテーマでサロンが開ける
- ネットワーク(協働コーディネーター)
 - ・NPO同士のフリースペースでの情報交換
 - ・NPOと行政・地域をつなぐ機能
 - ・通常活動している横での連絡が取れない。団体同士が話し合える場、手を組める場
 - ・ボランティアとNPOの同居(相談機能として便利)
- 異年齢交流
 - ・若者が来られる場所(利用しやすい場所)
 - ・高齢者と若者がジョイントして使える場



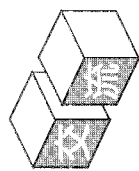
Qどんな活動拠点が必要?

第一回目の今回は、30秒での自己紹介と「どんな活動拠点があったらいいか」についての発表をしてもらいました。それをもとにグループに別れ、まずは「理想の活動拠点」についての意見交換をしました。ここでは、その時にあげられた意見を、「ヒト」「情報」「交流」「場所」「場」という4つのキーワードに分けてご紹介いたします。



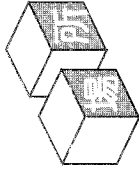
情報・広報

- 情報発信
 - ・ネットワークの専門分野を活かし、HPで情報提供
 - ・ボランティア募集の掲示板を設置する
 - ・ボランティアをやってもらいたいという人達の背中を押してくれるところ(アンケートではボランティアをしてもいいというのが実態はなかなかないので)
- 情報収集・提供
 - ・NPO法人のための図書館機能
 - ・団体の資料を管理する
 - ・人材バンク
 - ・情報のストック(データベース・ネットワーク化)
 - ・情報の公開(誰でも見れる)
 - ・広報・編集
 - ・公益活動の広報
 - ・何が出来るかを明確にする広報力



場所・施設

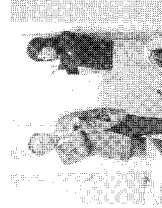
- 施設機能(ハード)
 - ・共同事務所(電話・人という事務局機能を共同で利用できる)
 - ・倉庫的な機能
- 場所について
 - ・魅力があり、人の集まる、誰もが来やすい場所
 - ・駅周辺(駅から近い)
 - ・郊外型(バス交通の便O・十分な駐車スペース)
- 設備
 - ・フリースペース・オープンスペース(100人くらい?)
 - ・施設・会議室(机・椅子100セット)
 - ・展示スペース
 - ・各団体のロッカー
 - ・倉庫・貸しスペース
 - 備品
 - ・プリンター・コピー機・パソコン・電話・折機



自己紹介の様子

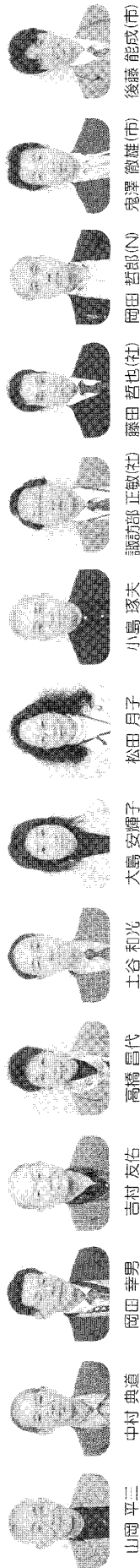


グループワークでの意見交換



各グループの発表!

グループワークの後半では、みんなが描く“理想の拠点”を実際に運営するとしたら、どんなカタチとなって、また、誰がどのように運営していくのか、他地域の事例を見ながら今後の課題について話し合いました。第二回目は、浦安市の市民活動センターと東京都北区のNPO・ボランティアぶらさを訪れ、たくさんの方と交流してこようと思います!



■ 昭治
(社) = 柏市社会
福祉協議会
(市) = 柏市
(N) = NPO連
ンターら